



令和7年度市川市下水道事業審議会

市川市下水道中期ビジョンの改訂 について（議題）

下水道部
下水道建設課



審議事項

令和8年度からの10年間を計画期間とした下水道中期ビジョンの改訂にあたり、**新たに配慮すべき視点**について審議いただくもの。

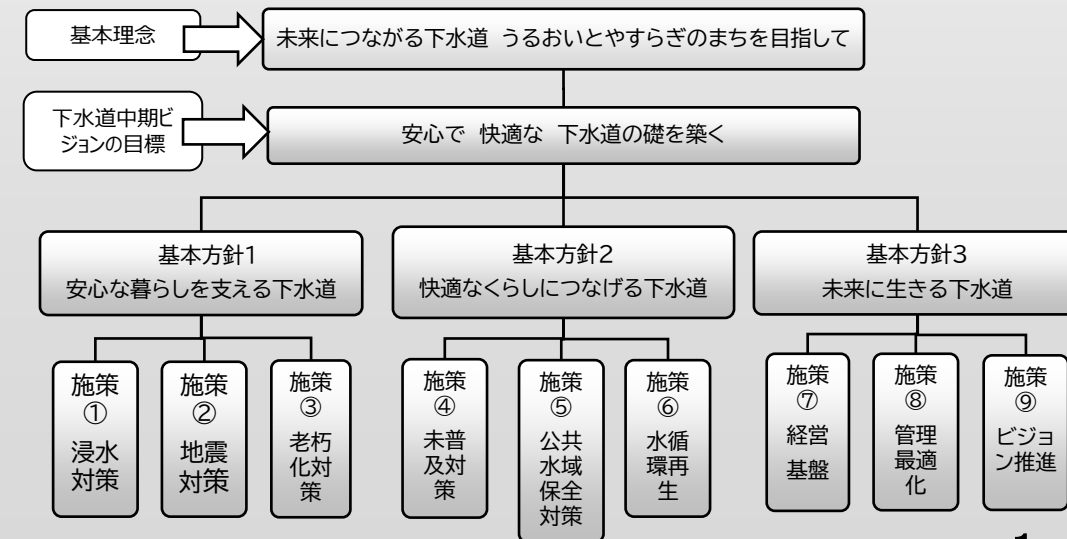
2. 施策の進捗

達成 R7年度達成見込み 未達成見込み

1. 市川市下水道中期ビジョンとは

- 将来の社会情勢や事業環境の変化を見据えた上で、今後の10年間程度を見通して、**下水道事業の目指す姿と戦略的な取り組み方針**を示したもの。
- 本市の現行の下水道中期ビジョンは「安心して 快適な 下水道の 礎を築く」を目標に下水道に係る様々な取組を段階的に着実に進めていく必要があるとして、**3つの基本方針と9つの取組むべき施策**を定めている。図－1 参照
- 現行の下水道中期ビジョンの計画期間は平成26年度～令和7年度であり、**本年度は最終年度**である。

図－1 下水道中期ビジョンの体系（現行）



目標項目	計画策定時（H24）	目標（R7）	実績（R6）
基本方針1 安心な暮らしを支える下水道			
① 浸水対策 【浸水被害の軽減を図るため、総合的な対策を推進する。】			
整備優先区域における雨水管の整備率	8%	16%	15%
整備優先区域におけるポンプ場の整備率	0%	78%	54%
メール等による情報発信サービス	－	開始する	開始した
浸水への備え、緊急対応の周知といった啓発行動回数	3回	3回/年	3回/年
② 地震対策 【いかなる時も下水道機能を確保するため、地震対策を推進する。】			
総合地震対策計画による管路の耐震化率	－	100%	91%
真間および管野ポンプ場耐震化率（土木建築）	0%	100%	0%
総合地震対策計画の策定	－	策定する	作成した
下水道DCPIに基づく訓練回数	－	1回/年	4回/年
③ 老朽化対策 【下水道機能の確実性を保つため、老朽化への対策を講じる】			
管野処理区下水管長寿命化計画の策定	基本計画段階	策定する	作成した
管野処理区下水管長寿命化対策率	0%	15%	6%
真間および管野ポンプ場長寿命化対策率	0	100%	0%
管野処理区の流域下水道への編入	－	編入する	県と協議中
柵渠の改修	－	改修計画に基づく改修に着手する	改修計画に基づく改修に着手した
排水ポンプ施設の改修	－	改修計画に基づく改修に着手する	24機場のうち4機場の改修工事が完了した
基本方針2 快適な暮らしにつながる下水道			
④ 下水道の未普及対策 【効果的・効率的な下水道整備を推進する】			
下水道普及率	69.8%	84.0%	80.2%
⑤ 総合的な公共用水域保全対策 【総合的な汚水処理方式により公共用水域の水質を保全する】			
全市汚水処理基本構想の再検証	－	再検証を実施	実施した
高度処理型合併浄化槽への転換数（※）	－	100基	49基
⑥ 水循環再生 【地下水の涵養等により、健全な水循環を育む】			
建築確認申請数に対する雨水排水届出数の割合	31%	100%	10%
湧水量の確認	1回	1回/年	1回/年
基本方針3 未来に生きる下水道			
⑦ 経営基盤の構築 【持続可能な下水道経営の基盤（財政・体制）を確立する】			
企業会計方式への移行	－	移行する	移行した
適正料金検討（※）	－	4回実施	3回実施
⑧ 管理の最適化 【健全で効率的な、維持管理の最適化を目指す】			
アセットマネジメント導入	－	導入する	－
⑨ 効果的な下水道中期ビジョンの推進 【円滑な下水道経営のため、情報発信や進捗管理を行う】			
市民に向けた啓発活動・Web活動	－	4回/年	4回/年
中期ビジョン進捗状況の公表	－	1回/年	1回/年

※印のあるものは期間中（平成26年度から）通算での数値。

3. 目標を達成するための課題

- 全24指標のうち、
目標を達成或いは達成見込みの指標が16施策、残る8指標が未達成見込み

未達成目標の項目		目標を達成するための課題
① 浸水対策	整備優先区域におけるポンプ場の整備率	令和8年度末完成に向けたスケジュール管理の徹底
② 地震対策	真間および菅野ポンプ場耐震化率（土木建築）	早期完了に向けた適切な執行体制の構築
③ 老朽化対策	菅野処理区下水管長寿命化対策率	早期完了に向けた適切な執行体制の構築
	菅野処理区の流域下水道への編入	江戸川第一終末処理場の整備促進
④ 下水道の未普及対策	下水道普及率	R14年度概成に向けた事業費の確保と適切な執行体制の構築
⑤ 総合的な 公共用水域保全対策	高度処理型合併浄化槽への転換数	約30年間で3,300基が転換、一定の役割は終了
⑥ 水循環再生	建築確認申請数に対する雨水排水届出数の割合	貯留・浸透施設設置の促進
⑧ 管理の最適化	アセットマネジメント※の導入	下水道資産の老朽化状態の可視化

※下水道を資産として捉え、下水道施設の状態を客観的に把握、評価し、中長期的な資産の状態を予測すると共に、予算制約を考慮して下水道施設を計画的、且つ効率的に管理する手法

4. 本市の下水道事業の取り巻く現状の変化と時代の潮流

- 下水道中期ビジョン策定より10年経過した現在、下水道事業を取り巻く環境も大きく変化

時代の潮流	
【災害・気候変動】	●熊本地震（2016年） ●能登半島地震（2024年） ●関東東北豪雨（2015年） ●西日本豪雨（2018年）
【感染症・衛生管理】	●新型コロナウイルス（2020年～） ●感染症の常態化（2023年～）
【経済・資材・人材】	●半導体不足（2022年～） ●資材・労務費高騰（2022年～） ●人材不足
【制度・政策・技術】	●インフラ長寿命化（2018年～） ●デジタル庁創設（2021年～） ●GX再エネ・脱炭素の加速（2023年～）
【社会構造・住民ニーズ】	●少子高齢化・人口減少 ●多文化共生・外国人増加 ●SNS・情報開示ニーズの高まり（近年）
第1次国土強靱化実施中期計画（R7.6.6閣議決定）	
●上下水道施設の戦略的維持管理・更新【国土交通省】 大口径下水道管路 ●上下水道施設の耐災害性強化【国土交通省】 水道・下水道の管路等の両方が耐震化 ●避難所の生活環境改善対策とそのための備蓄【内閣府】 スフィア基準を満たす避難所を設置するために必要となるトイレ	
新下水道ビジョン加速戦略（国土交通省令和4年度改定版）における重点項目	
●官民連携への推進 ●脱炭素化の推進 ●污水处理システムの最適化 ●水環境管理 ●アセットマネジメント・下水道DX ●気候変動等を踏まえた防災・減災の推進	
本市の下水道経営	
●未だ約10万人の市民が下水道を利用できない状況が存在する ●老朽化施設の増大に伴う更新投資の増大が見込まれる ●将来的に使用料収入の減少が見込まれる	

5. 新たに配慮すべき視点【審議事項】

- **人口の視点**
●現在も堅調に人口増加が続く本市においても、中長期的には確実に人口減少に転じると推測
●少子高齢化に伴う技術職員の減少
- **まちづくりの視点**
●老朽化した施設の適切な維持管理や更新
- **安心・安全の視点**
●激甚化する災害への対応、
●安全・安心に対する意識の高まり
- **地球環境の視点**
●中長期的な視点でのカーボンニュートラルの実現 ●GXの推進
- **財政の視点**
●高騰する物価や人件費への対応 ●公共インフラの更新費用の増加
●資産管理・デジタル化

6. 見直しの方向性

- 既存施策の継続を基本としつつも、「目標を達成するための課題」、「現状の変化と時代の潮流」や「**新たに配慮すべき視点**」を踏まえ施策を構成する。
- 現在策定中である市の最上位計画である総合計画と連携し、将来的な下水道事業の方向性の整合を図る

7. 今後予定

① 施策の進捗状況報告、及び新たな視点について審議（本日）



② 下水道中期ビジョン案の作成



③ 令和7年度2回目の審議会



④ 令和8年4月改訂、内容を公表